

異文化コミュニケーション学の 日本語学習支援への活用

2005年11月13日

於 立命館大学衣笠キャンパス

兵庫県立大学経済学部教授

松田 陽子

1. はじめに

- 1.1 参加型学習スタイル
＜関係作りのエクササイズ＞
- 1.2 なぜ日本語を学ぶのか
- 1.3 日本での日本語学習における異文化コミュニケーション
(教師と学習者、学習者と地域社会、学習者が学ぶこと)

2. 異文化コミュニケーション学の地平

- 1) 異文化を背景とする人・集団間のインターアクションに関する学際的学問
- 2) 人と人との相互作用に焦点を置く
- 3) 実践的問題意識にもとづく
- 4) 多様な集団レベルを対象とする
- 5) 認知・情意・行動の三局面

3. 文化・コミュニケーション

- 3.1 文化とは何か
「ある集団が、歴史的経緯の中で共有するようになった価値観・信念・通念・慣習・行動様式など」
- cf. ・高等文化と一般文化
・日本文化とは？
・文化は変わらない？

3.2 コミュニケーションとは

- 1) 言語コミュニケーション
(周辺言語を含む)
非言語コミュニケーション
- 2) 情報伝達
関係構築

3.3 文化の差異とは

3.3.1 文化はなぜ異なるのか

歴史・自然環境・社会構造・近代化・都市化、等等

3.3.2 冰山モデル

- 海面上と海面下



3.3.3 差異と共通性

- ・意味付与・価値観の違い

＜エクササイズ： α 文化と β 文化＞

- ・共通性

4. 異文化コミュニケーションとは何か

「異なった文化的背景の人たちの間の意味の付与を含む相互作用的で象徴的な過程」

(Gudykunst, William B.)

- * 多様な文化の共生をめざし、多文化間のよりよいコミュニケーションを考える

5. 体験的学習法

- 1) アクティビティ、ゲーム、シミュレーション

＜ミニ・エクササイズ：カルチャーショックのシミュレーション＞

- * 重要：(1) 後の振り返りの活動・意見交換、
(2) ファシリテーターの役割

- 2) 事例研究（異文化間のトラブルなど）、ロールプレイ、など。
(1) 問題になっていることを明確にする
(2) 複数の文化的要因を考える
(3) 解決方法を考えてみる

6. 日本語教育における異文化コミュニケーション

6.1 教師の異文化コミュニケーション能力

- ・文化相対的意識の涵養
(自文化中心主義から文化相対主義へ)

異文化感受性の発達モデル

The Development Model of Intercultural Sensitivity
(Milton Bennett)

文化の違いに対する個人の変容

＜自文化中心主義＞ → ＜文化相対的＞



異文化に対する態度

表1 異文化・異言語に対する心理・態度・接触方法

(松田 2005, p. 23より)

	否 定 的	中 間 的	肯 定 的
1) 心理	不信／蔑視 ／恐れ	好奇／不安	好意／尊敬／自 己同一化
2) 態度	無関心／無視 (不可視)／ 排斥	部分的関心・興 味の表出／表面 的好意表出	全体的容認／一 部共有／相互変 容
3) 接触 方法	距離を置く (自己帰属集 団の境界外の 存在として)	寛容(境界線上 の存在、上下・ 強弱・内外関係 として)	対等な関わり合 い(自己帰属集 団の境界内とし て)

日本語学習支援の観点からの 異文化コミュニケーション能力

- 文化観察力
- 共感力 (Empathy, エンパシー)
- 交渉力
- 確認力
- 人間関係構築力

6.2 学習内容

日本語コミュニケーション行為の文化的背景・
価値観の理解

—異文化の人との相互作用の中で

例) 間接的表現・曖昧表現 (cf. 遠慮と察し、状況依存性の高さ)
対人関係の持ち方
(cf. 「間人主義」、相互依存性、他者志向性)
主観表現の多様性
自己開示 (公的自己と私的自己)

練習＜誘いと断り＞

- 1) 日本語のクラスでどのような練習をすれば
よいでしょうか。15分ぐらいの授業計画を
考えてみてください。
(レベル・学習環境は自由に設定してくださ
い。)
- 2) 異文化コミュニケーションの視点を考慮し
て、もう一度考え直してみてください。

異文化コミュニケーションの 視点から

- ・学習者の状況・ニーズの配慮は？
- ・対人関係・状況は明確？
- ・学習者が主体的に誘う場面練習？
- ・断り行動の後の関係構築の練習？
- ・「日本的」と言われる型にはめていない？
- ・「あなたの国では？」と聞いてみる？
- ・言語行動の背景にある価値観は？

問題点

- *ステレオタイプの落とし穴
 - ・多様性を見落とす
 - ・差異の強調 (共通性を見落とす)
 - ・学習者の過剰反応

6.3 学習場面

一学習者の心理・社会的状況 の理解と共感

- 異文化を生きる学習者にとっての、日本社会でのエンパワーメントをめざす
- 教師と学習者の関係性の理解
 - ・ 力関係（パワー）の違いと、それに対する認識の違い
 - ・ 双方の期待感のズレ

7. おわりに

- ・ 教師の異文化コミュニケーション能力の必要性
（自文化の認識、多文化の理解・尊重・敬意、学習者との関係構築、等）
- ・ 学習者の異文化コミュニケーション能力の育成
- ・ 「想像力」と「創造力」
— 新たな考え方・生き方の創造

参考文献補足

- ・ 『日本語クラスの異文化理解
— 日本語教育の新たな視点』
角田三枝著 くろしお出版 2001
- ・ 『多文化共生のコミュニケーション
— 日本語教育の現場から』
徳井厚子著 アルク 2002